

愛知県薬剤師確保計画（案）パブリック・コメントの結果

番号	項目	意見の概要	県の考え方
1	3 薬剤師偏在指標	<p>計画書に使われている用語の定義がなく非常にわかりにくい。 例えば、地域別薬剤師偏在指標とは、医療機関と薬局を合計し、平均した指標なのか。</p>	<p>3 薬剤師偏在指標（1）薬剤師偏在指標について「地域別薬剤師偏在指標」について、新たに記載しました。</p>
2	6 目標薬剤師数を達成するための施策	<p>目標薬剤師数を達成するための施策が全く具体性がない。 賃金や労働条件を分析していない。医師等と比べ十分な水準であるのか検討していますか。他の都道府県と薬剤師の給料や処遇を比較検討していますか。愛知県は大学が増えているので薬剤師免許を持っている人は多くいると思います。将来、少子化で学生数が減るからこそ、薬剤師が魅力的な職業で在り続けるため、給料水準のアップや十分な手当や補助、社会保障の在り方を行政は検討し、目標達成のための施策として計画に加えていただきたい。</p>	<p>国が調査した結果（病院及び薬局薬剤師の勤務形態、労働時間等）に基づき算出された薬剤師偏在指標を用いて全国ベースで比較検討しています。 県内の薬剤師免許を持っている人に対して、薬剤師再就業支援事業や就職説明会等を通じて薬剤師の確保に取り組んでまいります。</p>
3	6 目標薬剤師数を達成するための施策	<p>薬剤師数の確保及び偏在の是正については、県立大学に薬学部を設置すべきであり、自治医科大のように条件付けで卒業後の勤務地に制限をつけるコースを設置すべきである。まず、県から姿勢を示すべきである。 偏在地域での公立病院での薬剤師待遇を向上させるべきである。待遇の差により民間病院や民間薬局に人材を取られている。 薬剤師が少ない地域ではオンラインの活用により薬剤師が多い地域の薬剤師の活用が必要ではないか。薬品は郵送やドローンにより運ぶことは有用ではないか。 病院の偏在を無くすために市街化調整区域にて診療所ではなく、病院が設置できるように県の扱いを変えるべきではないか。 県内の中学校や高校に赴き、薬剤師として地域医療に貢献することの大切さを講演していくべきである。地域医療への貢献は医師、看護師とと思っている生徒も多いと思うが薬剤師の役割の重さを知ったり、病院見学や薬学部を見学することも有用である。</p>	<p>中学生等へ薬剤師の魅力伝えるため、薬剤師会等と連携してまいります。</p>
4	6 目標薬剤師数を達成するための施策	<p>医学部と同じ6年間大学に通っても生涯賃金に大きな差がある現状では、ある程度学力があれば浪人してでも医学部が選ばれると思います。医師と同じように「薬剤師」の区分の給料表を作ることで、薬剤師の地位が向上し、薬学部を選ぶ人、卒業時に病院を選ぶ人も増えるのではないのでしょうか。 また、病院薬剤師に求められる仕事量、内容は増大・高度化しています。病院での薬剤師が不足しているのにはそうした背景もあると思います。病院には、ベッド数・処方箋枚数に応じて薬剤補助者を一定の人数おくことも検討してはいかがでしょうか。</p>	<p>県内の薬局・病院等へ就労状況等のアンケート調査を実施することにより、薬剤師の偏在対策を評価してまいります。</p>